

検討会(第1回)における各委員からの主な発言内容と論点について(案)

1. 長寿社会における生涯学習の意義・役割について

〈論点〉

- ライフスタイルの変化や自由時間の増大、高齢化の進展などを背景に、高齢者の学習ニーズが変化してきており、社会が高齢者に求める役割・期待も変化してきている。このような社会構造の変化に対応した生涯学習の意義・役割についてどのように考えるか。また、高齢者(プレ高齢者含む)にとっての学びの必要性とは何か。
- 豊かで活力ある高齢社会を実現するため、高齢者に対する学習機会の提供や社会参加活動の促進、世代間交流の充実、高齢社会の理解、高齢期準備教育等の各視点からの取組みを通じた生涯学習社会の構築が必要である。

〈主な意見〉

- 長寿社会では、人生90～100年を踏まえた人生設計が必要であり、そのために生涯学習が重要である。
- 生涯学習の目的として、特に退職した男性に如何に居場所を与えるかということが重要。居場所の要件としては、①好奇心が満足できること、②仲間がいること、③有用感や役割意識が感じられること、が必要である。
- 単に知識を授けるというのではなく、生き方、どういう価値観を持つかを身につける教育をやり直す必要がある。学んだことを活かして社会のために働き、元気なまま死んでいく、そういうシニアになれるような生涯学習の在り方を考えるべき。
- 単に高齢者の教育をどうするかということだけでなく、大きな社会システムの変更が迫られている中で生涯学習の在り方を考えることが必要。
- 学習の目的は自己実現であり、学ぶ前提の考え方として、社会貢献は権利であり、義務である。
- 日本社会が大きく転換し、社会構造が変わってきていることに対して、社会システムを教育という切り口でどのように変えていくかを考える必要がある。生きがいを持ってやることが社会にでていく駆動力にもなる。

2. 長寿社会における生涯学習の対象について

〈論点〉

- 退職前後世代だけではなく、30代、40代の働き盛りの世代や後期高齢期も対象とすることが必要。他方で、年齢差や個人差が非常に大きいため、学習機会を提供するに当たっては、当該対象の実態に応じた教育を行うことが必要。
- 現行の各種高齢者活動の参加者は健康に問題なく経済的にゆとりのある層に偏っており、健康問題や介護問題を抱えている高齢者層や経済的にゆとりのない高齢者層は参加しにくい傾向にある。こういった層に対する支援が必要。

- 生涯学習においては、現在高齢者教育に参加していない者(生涯学習をやってみたくて思っているができていない者)に関心を持たせるための方策(支援)の検討が必要。

<主な意見>

- 介護を抱えている人などは、教育的視点ではなく、福祉的視点からの支援が必要。学習の場に来られる人、来られない人、それぞれの支援を考えていく必要がある。
- 退職後、地域活動に参加したいと思ってもどうすればいいのかわからない高齢者も少なくない。高齢者になってしまったからの学習も重要であるが、30代や40代など働き盛りの世代が高齢期に入る前から、生涯学習などで意識付けを行うとともに、PTA活動を始めたとした地域活動を経験しておくことも重要。その場合、プレ高齢者が参加しやすい環境整備を行うことが必要。
- 社会参画を考えた場合、プレ高齢期や元気な前期高齢期の人ターゲットとされるが、後期高齢期の人も対象として考えるべき。

3. 長寿社会における生涯学習の内容・方法について

<論点>

- 高齢者の年齢幅は広く、ライフステージごとの特性や男女の特性、地域の特性、各自の課題ごとの特性など学習ニーズは多様。このため、時代の変化に対応した現代的課題を、柔軟な発想で適宜、提供する必要がある。また、学習成果を地域社会に還元していくため、学習形態も、ワークショップ形式での学習等の方法も採り入れ、体験活動を通して自分の力で解決していけるような工夫も必要。
- 予算の制約や定員等の関係から、生涯学習の場は限定されており、学びたくても学べない高齢者もいるものと思われる。また、健康に不安を抱える人の場合、出向いての学習が困難であることから、学習の場については、既存の場の拡充・連繫とともに、大学等新たな場の新設や既に高齢者教育を受けた者の自主サークル活動の活用やICTの活用、出前講座等アウトリーチ型の手法などについての検討が必要。その際、行政の部局を超えた連繫・協力が必要。
- 学習プログラムについては、教育的な論理を構築するとともに、高度化、専門化する学習ニーズに対して、高等教育機関との連携により、施設の持つ人材や施設設備等の学習資源をうまく活用し、より専門的な内容を計画的・継続的に提供していくことが必要。

<主な意見>

- 学齢期における学習と高齢期における学習内容では自ずと異なる。高齢期では、健康状況や経済状況が異なるとともに、価値観が多様化しており、どのような学習内容、方法を提供していくかについて検討が必要。また、学習する場としては、大学での学びやICTの活用による家庭での学習など選択の自由を与えることも重要。
- 学習成果の活用として社会参画を考えた場合、仲間がいないと地域社会活動に参加できないという高齢者も多く、学習プログラムでは、地域の課題についてテーマを決めてグループで取り組むという手法をとるなど、人間関係をうまく構築できるような内容にすることが重要。

- 経済的な視点から考えた場合、生涯学習も生きがい・趣味だけではなく、就労のためのスキルを身につけるという意味でも重要である。
- これまでのような集まる型の学習だけではなく、健康に不安を抱えていて参加できない人のためのアウトリーチ型の届ける学び・出会いが必要。
- 生涯学習の内容は固定化すべきではなく、スポーツなども重要。
- 高齢者が主体的に学んでいけるようなコーディネーターが必要不可欠。
- 後半人生を第二の義務教育として生活設計や人生設計を学ぶことが必要ではないか。できれば全員参加で、免許制にすることもありうる。
- 社会貢献を基礎とした学習を考える必要がある。
- 厚労省の行っている福祉的な論理とは異なる教育の論理をどのように構築していくかが必要。また学校教育とは異なる論理も必要となる。そうすると内容が必要であり、高齢者教育の内容論が必要となる。プレ高齢期、60～70代、80代の三層構造で考える必要がある。

4. 長寿社会における生涯学習の評価及び成果の活用について(高齢者の社会参画(地域社会との接続の仕組み)について)

<論点>

- 学習の成果をどのように地域社会に還元していくかをわかるように訴えていくことが重要。そのための指標としてどのようなものが考えられるか(ex: ボランティアを人件費として換算した場合の効果、医療費の抑制など)
- 高齢者の約3割が社会参加活動を行っているが、女性は、知人・友人のネットワークを介しての参加、男性は、自治会等の組織を介しての参加が多く、男女間で参加のきっかけに違いが見られる。このため、男性は、地域活動への参加には女性よりも消極的であり、高齢単身男性の孤立の要因の一つになっている。男女別の観点も含め高齢者の社会参加状況やニーズの把握等を行うとともに、今後増加が予想される高齢単身男性を積極的に社会参加させるための仕組みづくりが必要。
- 高齢者の豊富な知識や経験を埋もれさせるのではなく、地域のまちづくりの重要な資源として、また、児童の健全育成や文化交流等の担い手として様々な活動に生かせるよう、コーディネーターの育成を行うとともに、世代間交流や地域間交流などを促進させ、高齢者の豊富な知識と経験が生かせる場を確保することが必要。
- 高齢者が学習したことをベースに社会参加する際のきめ細かい情報提供や活動への参加希望者と活動団体とのマッチングの仕組み作りなどのサポート体制の構築が必要。

<主な意見>

- 生涯学習をあまり狭く考えるべきではなく、どのように評価し、仕組みを作っていくかが重要。地域の力をどのように引き出すかが求められており、そのためにもコミュニティがどれくらい成熟しているかが重要である。首長部局と教育委員会の連携も重要。
- 地方自治体では、財政が厳しくなると生涯学習の予算がカットされる傾向にある。
- きっかけがない、働ける場所がわからないという人も多いので、そういった人を導けるインストラクターのような人材を育てていくべきではないか。

5. 異世代間交流について

<論点>

- 幅広い世代間での交流は、地域の連帯感を育み、さらに社会全体の統合を維持していく上で必要不可欠。特に高齢者と青少年との交流は、高齢者の社会参画を促し、生きがいを高めるとともに、青少年の視野を広げ、地域や社会に対する関心・理解を深める役割を果たす。高齢者等の活用による世代間交流をどのように進めていくか。
- 学校と高齢者施設など、施設の複合整備により、子供は高齢者との交流を通して豊かな人間性を学び取ることができ、高齢者は生きがいを得ることが可能。

<主な意見>

- 空き教室を利用した高齢者のデイサービスで、学校放送を設備上切れなかったことが、子どもたちの声で元気になった例や、学校給食に招待した高齢者の自宅を子どもたちが訪問することになった例もある。高齢者が子どもたちと交流することにより、元気もでるし、生きがいも生まれる。高齢者のみが集まって学習するよりも、子どもたちとの交流ができる施設が必要。
- 世代間交流は地域のノーマライゼーションを作っていくためにも必要。

6. 体制の整備(各セクターの役割分担)について

<論点>

- 行政(国、自治体)の役割(縦割りの解消・横断的な連携体制の構築)、民間、NPO等との連携についてどのように行うべきか。
- 大学の教育研究・社会貢献活動、企業のCSR活動、社会教育活動、高齢者の自主組織、住民との連携方策について各地域で様々な取組を行っているが、双方で情報が不足しており、連携までに至っていない場合が多い。国の役割として、各地の情報を収集し、提供していくことで連携を促進させることはできないか。
- 生涯学習・社会教育部局と社会福祉協議会(地域におけるボランティア活動を推進)やシルバー人材センターなどの地域関連機関との連携強化の方策としてどのようなことが適当か。
- 生涯学習の中核的な施設としての放送大学の役割・活用について。

<主な意見>

- シルバー人材センターは、全国に1300以上のセンターがあり、就業・ボランティアなどの社会参画活動を通じて高齢者の生きがいづくりを行っている。また、老老介護や傾聴ボランティア、ワンコインサービスなどを実施。また、趣味にも力を入れており、サークル活動も行っているが、これは生涯学習といえるのではないか。
- 放送大学では、博士課程の設置を現在検討しているが、博士課程で学んだことを新しい公共の概念の元、地域社会に還元できる人材、いわば、地域社会に貢献できるオピニオンリーダーを養成することが、生涯学習の中心施設である放送大学の役割と考えている。

社会教育施設における学習内容別学級・講座の状況

資料4

○学級・講座の件数を学習内容別にみると、公民館では、「教養の向上」(52.3%)が最も多く、次いで、「家庭教育・家庭生活」(20.9%)、「体育・レクリエーション」(16.5%)の順となっている。

○女性教育施設では、「教養の向上」(39.0%)と最も多く、次いで「家庭教育・家庭生活」(27.7%)、「市民意識・社会連帯意識」(16.5%)の順となっている。

○生涯学習センターでは、「教養の向上」(55.1%)と最も多く、次いで「市民意識・社会連帯意識」(17.1%)、「家庭教育・家庭生活」(13.3%)の順となっている。

<学級・講座数>

区分	計	教養の向上		体育・レクリエーション	家庭教育・家庭生活	職業知識・技術の向上	市民意識・社会連帯意識(※)	指導者養成	その他
			うち趣味・稽古ごと						
公民館 (類似施設を含む。)	469,546	245,367 (52.3%)	211,625 (45.1%)	77,556 (16.5%)	98,279 (20.9%)	3,193 (0.7%)	34,405 (7.3%)	3,655 (0.8%)	7,091 (1.5%)
女性教育施設	9,936	3,875 (39.0%)	2,091 (21.0%)	231 (2.3%)	2,754 (27.7%)	855 (8.6%)	1,643 (16.5%)	150 (1.5%)	428 (4.3%)
生涯学習センター	19,566	10,777 (55.1%)	8,144 (41.6%)	947 (4.8%)	2,604 (13.3%)	565 (2.9%)	3,341 (17.1%)	417 (2.1%)	915 (4.7%)

資料：平成20年度社会教育調査報告書(文部科学省)

※市民意識・社会連帯意識の例

自然保護・環境問題・公害問題、資源・エネルギー問題、国際理解・国際情勢問題、政治・経済問題、裁判員制度、科学技術・情報化、男女共同参画・女性問題
 高齢化・少子化、社会福祉(障害者・高齢者福祉・年金等)、同和問題・人権問題、教育問題、消費者問題、地域・郷土の理解、まちづくり・住民参加、
 ボランティア活動・NPO、金融・保険・税金、自治体行政・経営、地域防災対策・安全、その他

社会参画重視型

江戸川総合人生大学(江戸川区)

目的

社会貢献を志す人々を応援する新しいかたちの学びの場であり、講義やグループ討議、体験学習など、多様な授業で楽しく学び、卒業後に地域貢献活動につながることを目指す。

内容

期間:2年間(1年次は年間60回程度で、週3~3日回、2年次は年間30回程度で専門科目の他に社会活動体験を40時間体験)
 学習方法:講義、グループ討議、体験学習
 学習内容(詳細は別紙参照)
 1. [1年次]専門科目(専門研究)と共通基礎科目を学び、知識と経験を高める。
 2. [2年次]専門科目(課題研究)と社会活動体験を通じて、課題認識を深め実践力を高める。

すぎなみ地域大学(杉並区)

目的

協働による新しい自治のまち・杉並の実現を目指し、地域サービスを地域住民自らが担うために必要な知識・技術を学び、仲間を助け、具体的な地域活動に取り組むための各種講座を実施。

内容

期間:前期・後期で複数のコースを提供しておりコースで異なる(3回~20回まで)。
 学習方法:講義
 学習内容(詳細別紙)
 各コースごとに地域活動に必要な知識・技術を学ぶ。

生きがい重視型

いなみの学園

目的

高齢者が自ら仲間づくりの輪をひろげ、生涯学習を通して教養をより高めるとともに、自己の新しい生き方を創造し、地域社会に発展寄与できるよう総合的、体系的な学習機会を提供する。なお、地域のリーダー養成に重点を置いた、地域活動指導者養成講座や大学院(それぞれ2年制)も設置。

内容

期間:4年間(週1回、年間30回、120授業時間)
 学習方法:講義
 学習内容(詳細は別紙参照)
 1. 一般教養(歴史・文化、自然、健康、福祉・介護、生き方・人間関係、社会の動き、教育)
 2. 各学科(園芸学科、健康作り学科、文化学科、陶芸学科)ごとの学習

明寿大学(前橋市)

目的

・自己啓発をとおして、生きがいをもち、地域の中で新しいライフスタイルを創造
 ・自らの豊かな経験を生かして、ともに学び合いながら、地域のために活動する意欲を培う。
 ・地域で活躍できるよう、必要な知識、技術を高め、地域社会への主体的参加の促進を図る。

内容

期間:4年間(月2回、9:30~15:00)
 学習方法:講座学習、研修、視察
 学習内容(詳細は別紙参照)
 1. 変容する社会に適應できる知識の習得
 2. 家庭地域社会での役割の自覚、世代間の理解、よりよい人間関係の形成
 3. 心身の健康維持に必要な知識と技能、生活習慣形成・改善
 4. 仲間づくりと趣味の拡充・向上、充実した日々の主体的実践態度の形成
 5. 高齢社会での熟年期の生き方、暮らし方
 6. 自立支え合い、健康で生きがいのある地域社会づくり

大学連繋型高齢者大学・市民大学におけるカリキュラムの例

社会参画重視型

チャレンジコミュニティ大学(港区)

目的

高齢者や高齢を迎える方が、学習を通じて個々の能力を再開発し、自らが生きがいのある豊かな人生を創造するとともに、今まで培ってきた知識・経験を地域に活かし、地域の活性化や地域コミュニティの育成に積極的に活躍するリーダーを養成することを目的とし、港区が明治学院大学に業務委託し、大学内に開設。

内容

期間: 1年間(週1回、2時限180分)40日

学習方法: 講義、実習、見学

学習内容(詳細は別紙参照)

1. 社会福祉(ボランティア、NPO活動含む)
2. 健康増進(健康・スポーツ)
3. 一般教養(文学、芸術、心理学、法律、政治経済)
4. 区のしくみ、行政課題等

なかの生涯学習大学(中野区)

目的

- ・自己啓発をとおして、生きがいをもち、地域の中で新しいライフスタイルを創造
- ・自らの豊かな経験を生かして、ともに学び合いながら、地域のために活動する意欲を培う。
- ・地域で活躍できるよう、必要な知識、技術を高め、地域社会への主体的参加の促進を図る。

内容

期間: 3年間(年22回)

学習方法: 講義、実習、地域学習、合同学習

学習内容(詳細は別紙参照)

1. 地域活動(社会参画、まちづくり)
2. 健康増進(健康・介護、生き方)
3. 一般教養(文学、芸術、心理学、法律、政治経済)
4. コース(①老いを心豊かに生きる、②歴史・文化、③国際理解、④教育支援)

生きがい重視型

立教セカンドステージ大学(立教大学)

目的

シニア世代とそれに前後する各世代が自らの生きる意味と、他者とともにあることの意味をじっくり考え、シチズンシップをわきまえた市民社会の主体的一員、すなわち真の「市民」として生きていくには何が必要かを真剣に学びあう、新しい生涯学習の場を構築すること。修了者には、文部科学省が定めた学校教育法第105条に基づき、「履修証明書」が授与される。

内容

期間: 1年間(所定の履修科目18単位以上の取得並びに終了報告書の提出)

学習方法: 講義、ゼミ

学習内容(詳細は別紙参照)

1. エイジング社会の教養科目群(23科目)
2. コミュニティデザインとビジネス科目群(10科目)
3. セカンドステージ設計科目群(13科目)
4. ゼミナール・修了報告書

超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会スケジュール(案)

9月26日 第1回 検討会

審議内容:①超高齢社会における生涯学習と社会参画の現状と課題
②その他
※ フリーディスカッション

11月 2日 第2回 検討会

審議内容:①超高齢社会における生涯学習の意義及び役割
②その他
※ 下記委員からの発表の後論点別のディスカッション
○石川委員:公民館での取り組みの現状と課題
○清原委員:生涯学習を通じたまちづくりの現状と課題(三鷹市での取組)

全国生涯学習ネットワークフォーラム
第3分科会(希望の高齢社会ー新しい可能性への挑戦ー)
日時:2011年11月5日(土)、6日(日)
場所:イイノホール

12月21日 第3回 検討会

審議内容:①生涯学習を通じた社会参画
②生涯学習の体制整備(関係機関との連携の在り方)
③その他
※ 下記委員からの発表の後論点別のディスカッション
○高畑委員:生涯学習を通じた社会参画(学習成果をどのように地域還元するか。)
○堀田委員:福祉の立場からの生涯学習(生涯学習と福祉との連繋)

1月19日 第4回 検討会

審議内容:超高齢社会における生涯学習の在り方
※ 骨子案の審議

2月 3日 第5回 検討会

審議内容:超高齢社会における生涯学習の在り方
※ まとめ(案)の審議

2月下旬 第6回 検討会

審議内容:超高齢社会における生涯学習の在り方
※ まとめ(案)の審議

3月中旬 第7回 検討会(予備)